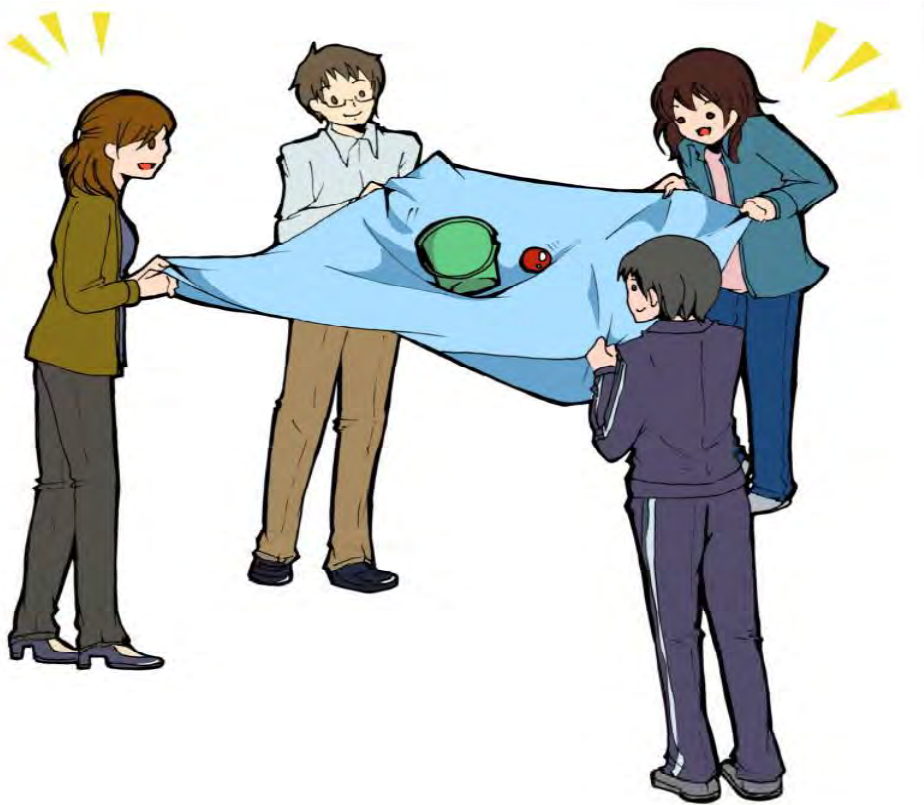


第三章

アイスブレイキング・資料編

これから活動を始めようとするときに、学習者の緊張を解きほぐすのがアイスブレイキングです。アイスブレイキングをとおして、学習者同士の相互理解やコミュニケーション促進など、一人一人を大切にしたい居心地の良い学習環境をつくりたい。場面にあった言葉かけの例などを参考に様々な活動の展開を工夫することができます。



大切な日ライン



時間：15分

対象：子ども～

人数：10人～

言葉に頼らず活動することで、ジェスチャーもコミュニケーションの大切な方法であることに気付くとともに、動作においても、相手を尊重した動作が大切であることに気がきます。



言葉かけの例等

12月31日 1月1日



- 1 「大切な日」を想起します。
 - 2 起点となる1月1日と12月31日の位置についての説明を聞き、「大切な日」の日にち順に、言葉を使わずに円を描くように並びます。
 - 3 円をつくり終わったら、1月1日に近い人から時計回りに自分の「大切な日」はいつであり、その日はどのような日であるか発表します。
 - 4 もし、間違わずに円ができたときには、お互いに拍手をして達成感を味わいます。もし、間違えたときには、言葉を使わないコミュニケーションの奥深さを確認し合います。
- ※本活動はグループ分けにも使えます。

皆さんにとって誕生日や結婚記念日など大切な日は何月何日ですか。その日にちを頭に思い浮かべてください。

(起点を指さしながら)こちらが1月1日になります。ここからスタートして最後が12月31日なるように円をつくりましょう。ただし、決して言葉は使わないようにしてください。

1月1日に最も近い人から皆さんにとって大切な日はいつであり、その日はどのような日であるか発表していきましょう。

素晴らしいですね。お互いに拍手をしましょう。
言葉を使わないコミュニケーションの奥深さを感じますよね。

※先頭から〇人のグループをつくっていきましょう。

準備物：なし

<気付いてほしい人権教育のポイント>



「言葉に頼らない」活動の中でもジェスチャーなどを用いて、共に活動に取り組む中で身振りや表情の大切さに気がきます。また、無意識のうちにそれらが子どもたちに与える影響について考えることができます。活動をとおして、子どもたちの人権を尊重した動作や接し方について考えていくことができます。

うそを見破れ！



時間：15分

対象：子ども～

人数：4人～

グループ内で順番に自己紹介を行い、4つのうちの1つの「うそ」を見破る楽しい活動を通して、温かな場の雰囲気をつくり、他者理解を深めます。



言葉かけの例 等

1 4人のグループをつくり、配られた自己紹介カードに氏名を書きます。

配りました自己紹介カードに氏名を書いてください。

2 自己紹介である「私は・・・。」で始まる4つの文のうち、1つは「うそ」を書きます。

「私は・・・。」から始まる4つの自己紹介の文を書いてください。

短い文の箇条書きで結構です。

自己紹介カード
氏名

1 私は、読書が趣味です。

2 私は、毎日ウォーキングをしています。

3 私は、○○○○○○○○○○。

4 私は、○○○○○○○○○○。

ただし、4つの文のうち、1つは「うそ」を書いてください。

3 4つの文を見せながら一人ずつ自己紹介をします。聞いている人は、「うそ」の予想をし、正解を聞きます。

それではグループで自己紹介カードを使って一人ずつ自己紹介を試みましょう。

聞いている人は4つの文のうちどれが「うそ」か予想してみましょう。

聞いている人から「うそ」の予想が出されたら、自己紹介している人は正解を言いましょう。

4 うそをつかない自己紹介の時の聞き方と今回では、聞き方にどのような違いがあったかふりかえります。

うそをつかない自己紹介の時の聞き方と今回では、聞き方にどのような違いがありましたか。

準備物：自己紹介カード

<気付いてほしい人権教育のポイント>



ゲーム形式の自己紹介カードを使った自己紹介を聞くことにより、相手に対する関心を高めることができます。対象が家庭教育支援事業関係者の場合は、より一層他者を理解しようとする意識を高め、初めて出会った人同士の緊張をほぐし、連帯感や仲間意識も育むことができます。

お気に入り自己紹介



時間：20分

対象：子ども～

人数：4人～

お気に入りのものを伝え合うことで、和やかな雰囲気をつくります。また、互いの共通点を知ることが、「ちがい」を受け入れるために大切であることに気がきます。

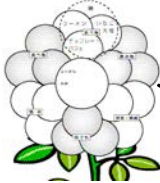


言葉かけの例等

1 2～6人のグループに分かれ、個別にワークシートを受け取ります。

これから、この用紙を使って自己紹介をします。

2 花の中央の枠に自分の名前を書きます。



花の真ん中の枠に自分の名前を書いて、上にふりがなをふってください。

3 記入例を見ながら、「お気に入り自己紹介」についての詳しい説明を聞き、5分間で書きます。



花の上の「例」を見てください。このように「食べ物」など表示されたジャンルごとに、「興味のあるもの」「好きなもの」を、自由に書いてください。
それでは、5分間時間をとります。書き始めてください。

4 一人ずつ自己紹介をし、一番気に入っているものについて、一つ紹介します。

それでは、わたしに一番近い人から右回りで、自己紹介と一番気に入っているものについて、グループの皆さんに紹介してください。どうぞ。

5 お互いの用紙を見ながら、気になることを伝え合います。

今度は、全員の用紙をテーブルの真ん中に置いて、互いに用紙を見合いながら、気になることや自分と似ているものについて自由に伝え合ってみましょう。

会話が始まらないグループには、ファシリテーターが声かけします。

6 気付いたこと、思ったことを話し合います。

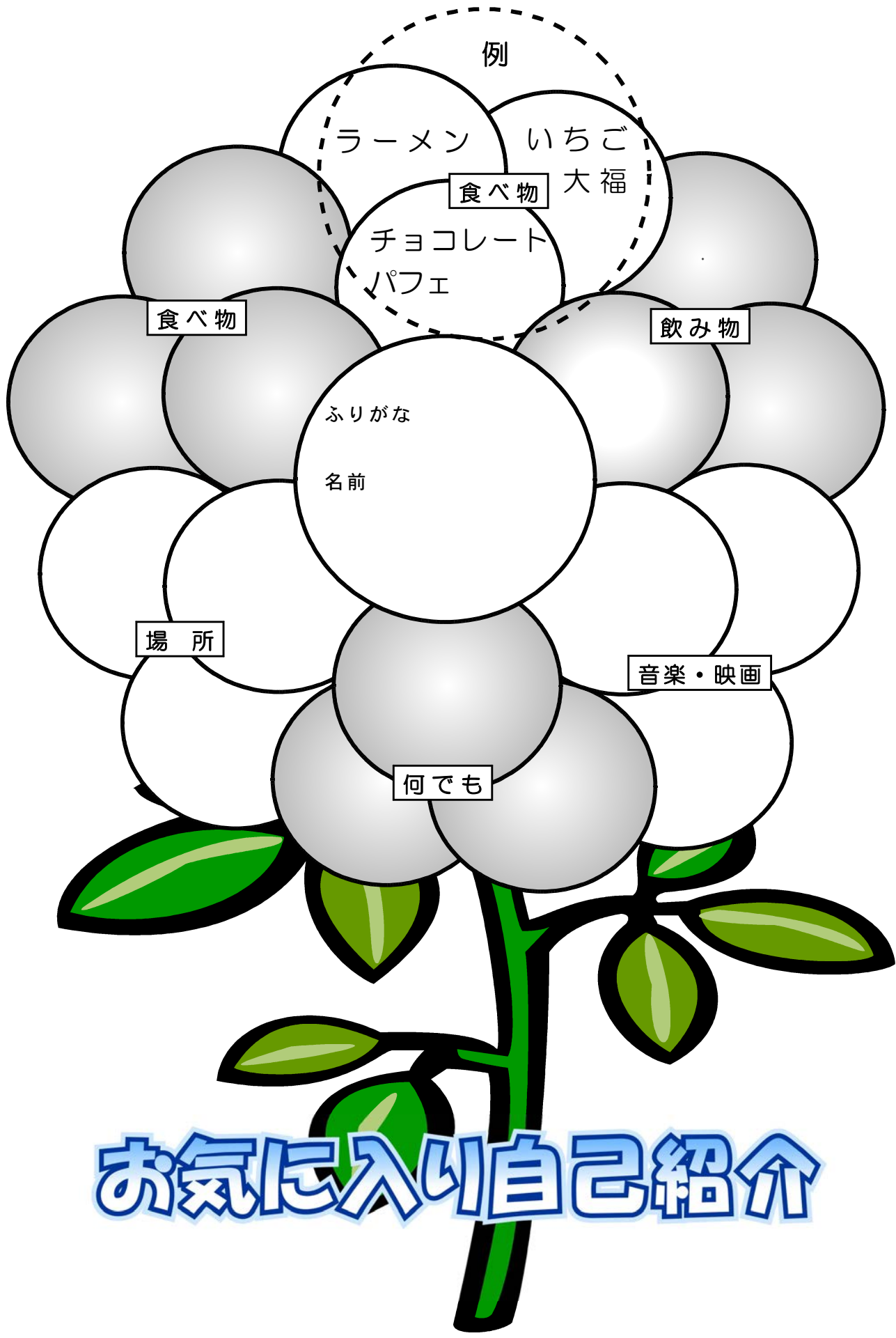
話が盛り上がったときはどんなときでしたか。
共通点があったとき、どんな気持ちでしたか。

準備物：ワークシート（P27）

<気付いてほしい人権教育のポイント>



「ちがい」を受け入れることは大切だと言われていますが、実際には難しいことです。むしろ、共通点を見つけ、お互いが同じような体験や感情を共有していたということに気付くことが、「ちがい」を受け入れるための素地になるでしょう。「ちがい」を強調する視点から、共通点を共有する視点へ転換することは、家庭教育支援事業においても大切です。



例

ラーメン

いちご

食べ物

大福

チョコレート

パフェ

食べ物

飲み物

ふりがな

名前

場所

音楽・映画

何でも

お気に入りに自己紹介

〇〇をさがせ！



時間：15分

対象：子ども～

人数：10人～

初めて会った人同士が多くの人とかかわることをとおして、緊張感を和らげます。また、互いの考えを認め合うことの心地よさを感じることができます。



言葉かけの例等

- 1 ワークシートの内容を確認し、自分に当てはまる質問項目の番号に〇を付けます。 <例 家庭教育支援事業編>

【〇〇をさがせ！】

- 1 コーヒーよりお茶が好きだ。
- 2 毎朝「行ってらっしゃい」と見送る。
- 3 家事を分担している。
以下ワークシート参照

- 2 自己紹介をしてジャンケンをします。

- 3 勝った人は、質問の中から相手が「Yes」と答えると思われるものを選び、質問します。

- 4 相手が「Yes」と答えたら、ワークシートにサインをもらいます。

- 5 時間は約5分程度とし、できるだけ多くのサインを集められるように、相手を探して活動2～活動4を繰り返します。

- 6 最初に〇をつけた項目とサインを比べ、活動の感想を話し合います。

これから、たくさんの人と自己紹介をしていきましょう。まず、質問項目の中から自分に当てはまる項目を選び、その番号に〇をつけましょう。ワークシートの空欄には、自由に質問項目を書かしてください。

近くの人とペアを組んで、お互いに簡単な（名前と所属等）自己紹介をしてからジャンケンをします。

まず、勝った人は相手が「Yes」と答えてくれそうな質問を選んで聞いてみましょう。次に負けた人も同じように相手が「Yes」と答えてくれそうな質問を選んで聞いてみましょう。

答えが「Yes」の時には、ワークシートにサインをもらいましょう。「No」の場合は、サインはもらわずに次の相手を探しましょう。

できるだけたくさんの人とジャンケンをして、「Yes」と答えてくれそうな人を探しましょう。

皆さんからもらったサインと自分が〇を付けた項目とを比べてみましょう。それぞれの共通点や違いを大切にしていきましょう。

準備物：ワークシート（P29）

<気付いてほしい人権教育のポイント>



質問に当てはまる人を探すというゲームをとおして、学習者同士の緊張をほぐし、居心地のよい雰囲気をつくります。また、自分の考えと他人の考えを比べることで、個性を尊重することの大切さに気づき、互いの考えを認め合うことの心地よさを感じることができます。

〇〇を さがせ！

<サイン>

1 コーヒーよりお茶が好きだ	
2 毎朝「いってらっしゃい」 と見送る	
3 家事を分担している	
4 朝食は、和食が良い	
5 昨日、子どもと一緒に 夕食をとった	
6 1か月間に家族でどこかへ 出かけた	
7 お弁当を作っている	
8 やっぱり子どもはかわいい	
9 ()	
10 ()	

よいところさがし



時間：20分

対象：子ども～

人数：5人～

これから一緒に活動するメンバーの良いところを見つけ合うことで「温かな場の雰囲気」をつくり、主体的にお互いの長所を見つけようとする意識を高めます。



言葉かけの例等

1 5、6人のグループに分かれます。

2 配られた紙を8つに折りま
す。

3 一番下の欄に名前を記入し
ます。

4 一番上の欄に自分の良いところを自
分で記入します。記入後、一番上の欄
を折り、自分の良いところの欄を隠し
ます。

5 自分の紙を隣の人に回し、メンバー
各自に自分の良いところを上から
一行ずつ記入してもらいます。記入後、
書いた欄を見えないように折り、隣の
人に回します。

6 自分のところに戻ってきた自分の
「よいところさがし」の紙を一斉に開
いて読みます。

7 紙の内容を見て、気付いたことや思
ったことを話し合います。

これから温かな雰囲気を皆さんでつく
っていくために「よいところさがし」を
行っていきましょう。

一番上の折り線は谷折りになるように
しましょう。

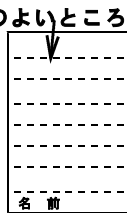
自分の名前を8つ折りにした紙の一番下
の欄に書きましょう。

一番上の欄に自分の「よいところ」を
書きましょう。ちょっと恥ずかしい人も
頑張って書いてください。書き終わしま
したら、紙を折ってそれを隠してくださ
い。

それでは皆さんの紙を時計回りに渡し
ていきます。(一人90秒程度で、全員が
書き終わるまで回します。)

それでは自分の紙を開いて見てみま
しょう。

紙の内容を見て気付いたことや思った
ことをグループで話し合しましょう。



準備物：A4の紙1枚

<気付いてほしい人権教育のポイント>



初対面の人でも自己紹介の後に、第一印象などでメンバーの良いところを探していくことによって、お互いの長所を見つけていこうとする視点をもつことができます。これは、人権尊重の精神の涵養の基盤となる「人権が尊重された雰囲気や環境づくり」に欠かすことができません。本活動をとおして、お互いが尊重され、安心して活動できる家庭教育学級の雰囲気づくりができます。

あいこでジャンケン



時間：10分

対象：子ども～

人数：2人～

学習の雰囲気づくりをしながら、ジャンケンの結果から人権感覚や人間関係の在り方に気付くことができます。



言葉かけの例等

1 となりに座っていた人と向かい合い、立ちながらジャンケンをします。

となりに座っている人と立ちながらジャンケンをしましょう。

2 4回勝った人はいすに座り、負けた人はそのまま立ち続けます。



4回勝った人はいすに座って楽しんでいてください。負けた人はそのまま立ち続けていてください。

3 勝った人、負けた人それぞれ今の気持ちを発表します。

勝った人は今どんな気持ちですか。負けた人は今どんな気持ちですか。

4 再びとなりの人と立ちながら、ジャンケンをします。3回（または2回）あいこになったら2人ともいすに座ります。



もう一度立ってジャンケンをします。今度は、3回（または2回）あいこになったら2人ともいすに座って楽しんでください。

5 あいこのジャンケンをした感想を発表します。

どんな気持ちであいこのジャンケンをしましたか。先ほどの勝ち負けジャンケンと気持ちの違いはありましたか。

6 人間関係に例えると、勝ち負けの関係とあいこの関係はどちらが互いに気持ちが良いかふりかえります。

勝ち負けジャンケンとあいこのジャンケンを人間関係に例えると、どちらの方が互いに気持ちが良いでしょうか。

準備物：なし

<気付いてほしい人権教育のポイント>



それぞれのジャンケンを人間関係に例え、勝ち負けの関係は人間関係にとってはマイナスになる場合が少なくないこと、反対にあいこの関係は互いに気持ちが良いことに気付くことができます。対象が家庭教育支援事業関係者の場合は、夫婦間や子どもなどに対してもあいこの関係づくりが大切であることに気付くことができます。

ものの見方・考え方



時間：10分

対象：子ども～

人数：2人～

「だまし絵」をとおして、今まで決めつけた見方をしていたために、他の見方が困難になった経験を想起することで、物事を多面的に見ることの大切さに気付きます。



言葉かけの例等

- 1 図Aを見て、何が見えるか考えます。



図A

皆さんは、この絵を見て、何が見えますか。（少し考える時間をとります。）
「二羽の鶴」と「向き合った二人の顔」が同時に見えますか。

- 2 図Bを見て、女性の年齢を考えます。



図B

二人の女性の顔が見えますか。一人は高齢の女性。もう一人は若い女性です。同時には見えにくいと思いませんか。一人しか見えない人は、二人の女性が見えるという人に教えてもらってください。

- 3 図Bから二人の女性が見えるか話し合います。（周囲の人に尋ねたり、教え合ったりします。）

みなさんには、一つの物事を見てそれが何かわかるとそのことに満足してしまいうことはありませんか。
ものごとには、よく見ると他の見方もできることがみなさんの身近にはないでしょうか。

- 4 今までに一面的な見方しかできず、決めつけてしまった経験を出し合います。

一面的な見方ではなく、見る角度やどこを中心に見るかなど、いろいろな視点から考えることも時には大切だと思いませんか。

準備物：2枚の絵（「鶴と向き合った二人」、「婦人と老婆」）

<気付いてほしい人権教育のポイント>



複数の解釈ができる絵について考えることから、物事には、多面性があることに気付くことができます。また、一面的な見方に固執すると、他の見方がしにくくなるので、物事を意図的に複数の視点から見ようとする大切さに気付くことができます。家庭生活においても、子どもの短所ばかりをとらえていると、長所がとらえにくくなることに気付く機会となります。

伝えること・伝わること



時間：15分

対象：大人～

人数：4人×グループ

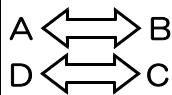
自分が話した内容がどのように人に伝わるのか確認し合うことをとおして、相手に正確に伝えることの難しさや伝えるためのポイントに気付いていきます。



言葉かけの例等

1 4人グループをつくり

AさんとBさん、CさんとDさんとさらに2人組になります。



これから4人グループで図のように座り、AとB、CとDとなるように2人組をつくってください。

2 各自、1分間、「私が考える小学生像」について考えをまとめます。

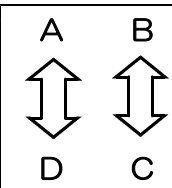
「私が考える中学生像」、「私が考える父親像」、「私が考える母親像」について考えることも可能です。

皆さんに「私の考える小学生像」について考えてもらいます。それでは1分間考えてください。

3 2人組で「私が考える小学生像」について各自、30秒間、話します。

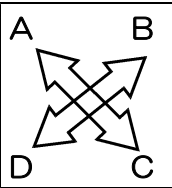
それでは考えたことを各自30秒で話します。その後、その内容についてグループの他のメンバーに伝えていきます。

4 AさんはDさんと、BさんはCさんと2人組をつくり、3の活動でペアの人から聞いた内容を新たなペアの人に伝えます。



次にペアを図のように替えてください。今度は先ほどのペアから聞いたことを新しいペアの人に伝えてください。一人30秒でお願いします。

5 AさんはCさんと、BさんはDさんと2人組をつくり、現在、目の前にいるペアの人の考えをどのように聞いたか伝えます。



最後にAとC、BとDの人でペアをつくり、先ほどのペアから聞いた考えを伝えてください。話し合いやすいように位置を変えて結構です。

6 自分の考えがどのように伝わっていたか、感想を発表します。

自分の伝えたことが人を介して伝わってきましたが、どのような感想をもちましたか。（普段の生活の中で、自分の意図と異なって話が伝わったことはありませんか。）

準備物：なし

<気付いてほしい人権教育のポイント>



話はどのように伝わるのか、伝える人により、似ている中にも違いが見られることがあります。考えを伝え、聞く中で「正確に伝えることや正確に聞くことの難しさ、大切さ」、例えば、学校に関することで、保護者に伝えた内容とその時に子どもをとおして保護者が理解した内容の差異や留意すべきことに気付きます。

知っていますか？100円玉



時間：10分

対象：子ども～

人数：4人～

身近にあり、普段何気なく見ているものを改めて思い浮かべてみることで、見ているようでよく見ていないことに気づき、物事を正しく見ることの大切さに気づきます。



言葉かけの例等

1 普段の生活の中で100円玉をよく使っていることを確認します。

<表>

<裏>



2 100円玉を頭の中に思い浮かべます。

3 思い浮かべた100円玉の表面を詳しく描きます。

4 100円玉を拡大した図と自分が描いた絵とを比べ、思ったことや感じたことを発表します。

(例)・何気なく使っているのに、よく見たことがない。

・見ているつもりだった。

5 活動の感想を話し合います。

6 日本の硬貨についての話を聞きます。

みなさん、最近、お買い物に行きましたか。お店で買い物する際に、また自動販売機でジュースを買う時に100円玉を使っていますね。「今日使った。」という人もいるかもしれません。

100円玉を思い出してみてください。裏には「100」とあります。では、表面を思い浮かべてください。

今、思い浮かべた100円玉をできるだけ詳しく描いてみましょう。

絵を描いてみて、どんなことを感じましたか。実際の100円玉と描いたものを比べて、感じたことはありませんか。物事を正しく見るためには、意識して見るのが大切です。普段の生活でも生かせることはありませんか。

最後に、日本の硬貨のデザインについてお話しします。実は日本の硬貨は手触りで見分けることができます。5円玉と50円玉、10円玉と100円玉はそれぞれ、穴があるか、また、縁にギザがついているかどうかで見分けることができます。

準備物：100円玉の拡大写真

<気付いてほしい人権教育のポイント>



身近にある「100円玉」を改めて思い出し、描くという活動をとおして、普段見慣れている・触れているものだからといって、必ずしも正しく知っているわけではないことを体感します。物事を正しく見る、正しく理解するためには、「意識する」ことが大切です。正しく理解しようと意識することは、身近な生活の中でも大切であることに気づきます。

バケツボール



時間：20分

対象：子ども～

人数：4人～

活動をとおして、一人一人の存在や意見を尊重することの大切さや、協力することの大切さを学びます。また、連帯感や満足感、成就感も感じることができます。



言葉かけの例等

1 シートの周りに立ち、配置につきます。

2 シートの真ん中に、バケツとボールを1つずつ入れます。

場合によっては、バレーボールとソフトボールなど、大きさの違う2つのボールを入れることも可能です。

3 説明を聞いて、活動をスタートします。



4 活動の中で感じたことを共有し、活動をふりかえります。

まず、グループ全員でシートの端を両手で持ち、シートを広げて、立ってください。

これからルールを説明します。
①シートの真ん中にバケツとボールを入れますが、手で触らないでください。
②シートの端だけを持ってください。

皆さんで力を合わせて、まずボールをバケツの中に入れてください。
その後、シートの上でバケツを立てて、最後にバケツを立てたまま、地面に下ろしてください。
何度やり直してもいいですが、先ほどのルールは守ってくださいね。
それでは、みなさん用意はいいですか。スタート。

成功した時は、どんな気持ちでしたか。
どうして成功できたのでしょうか。
普段の生活で、同じようなことはありませんか。それはどんな場面ですか。

準備物（1セット）：3m×4mくらいの丈夫なシート バケツ ボール

<気付いてほしい人権教育のポイント>



集団で同じ目標をもって活動できるので、お互いに自然と声をかけながら活動が進みます。しかし、当然全員が思うように動くわけではなく、うまく進まない事態が起きてきます。その中で、目標を達成するために、どんな言葉かけが必要なのでしょう。成功したきっかけとなる場面、トラブルになる恐れがあった場面などをふりかえり、仲間一人一人を尊重しながら行動することの大切さに気付くようにします。

メイク・ア・スクエア



時間：20分

対象：子ども～

人数：4人×グループ

自分のことだけでなく、他の人のことも考えないと解決できない課題をとおして、他者を思いやる心の大切さに気付きます。



言葉かけの例 等

1 4人のグループを作り、1人ずつ封筒を受け取ります。

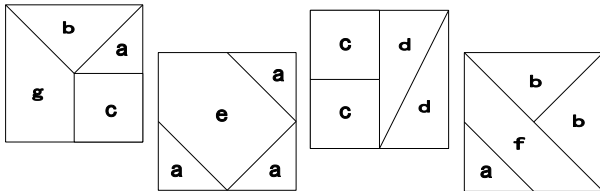
4種類の封筒の中には、それぞれ以下のパーツが入っていることを確認します。

- ① a a f g ② a b d e
- ③ b c c d ④ a a b c

2 グループごとに正方形を4つ作ります。

①の封筒を手にした人だけが、正方形を完成できます。

【完成図】



3 感想や気づいたことを発表し、活動をふりかえります。

これから各自4つのパーツが入った封筒を配ります。
どんな形が入っているのか、封筒の中を確認してください。

これらのパーツを組み合わせて正方形を作ります。グループの4人全員が、それぞれ正方形を作り終わったら完成です。
4人になっていないグループは、誰かが2つの封筒を預かり、2つの正方形を作るようにしてください。
それでは準備はいいですか。スタート。

グループ内でパーツを交換してもよいということは、質問があったときにだけ答えます。始めは黙って見守ります。

<ヒントの言葉かけ>
グループで、同じ大きさの正方形が4つできることになりますよ。
どうしても分からないグループは、他のグループを見てきてもいいですよ。

完成している正方形をどうしてくずしたのですか。(封筒①担当者への質問)
この活動で気付いたことはありますか。

準備物：4つの封筒に分けたパズル(グループ数分)(P37参照)

<気付いてほしい人権教育のポイント>



4つの正方形が同時に作れるのは、【完成図】の組み合わせだけです。
私たちは、ついつい「自分さえよければ・・・」という気持ちを優先してしまうことがあります。しかし、私たちの生活では、他の人のことを考えながら活動する場面が多くあります。ここでは、全員で課題を解決する気持ちよさを味わうとともに、お互いを考えた行動をとるという視点の大切さに気付くようにします。

「おかえり」って言ってもらえる家がある
 「ただいま」って言える家がある
 「いただきます」って言って食べれるものがある
 「おやすみ」ってスヤスヤ眠れる場所がある
 「ありがとう」って言える人がいる
 「おめでとう」って言いたい人がいる
 「好きです」って伝えたい人がいる
 「こんにちは」って言える近所の人がある
 「バイバイ」って言える友達がいる
 「ごめんね」って謝れる家族、友達がいる
 「がんばろう」って言い合える友達がいる
 こんなあたり前のことだけど
 あたり前のことができるのは本当に『幸せ』
 なんだと思うんだ。

【出典】和歌山県人権の詩2011 理事長賞
 「本当の『幸せ』」上富田中学校3年
 山路 千晶さん（上富田市）

どうしてだろう
 傷つけるのも人
 傷つけられるのも人
 だれもが人の気持ちを
 分かるはずなのに
 ふしぎだね
 傷つける人も
 どこかで助けを
 求めている
 そしてその見えない傷を
 見つけるのも
 私たち人間だ
 そうお互いの見えない傷に
 気付くことができれば
 私たちは
 もっと幸せになれるにちがいない

【出典】和歌山県人権の詩2011 知事賞
 「見えない傷」 県立和歌山東高等学校3年
 井西 唯さん（和歌山市）

そっと 頭をなでる 母の手が
 やさしくて 寝たふりをする
 【出典】文部科学省「楽しい子育て全国キャンペーン」～親子で
 話そう！家族のきずな・我が家のルール～三行詩優秀作
 品集文部科学大臣賞中学生の部秋山椎名さん（愛媛県）

家庭菜園 似てます なぜかウチの子に
 不揃いだけど 味がある
 【出典】文部科学省「楽しい子育て全国キャンペーン」～親子で
 話そう！家族のきずな・我が家のルール～三行詩優秀作
 品集文部科学大臣賞一般の部小寺優子さん（愛知県）

小さい頃 親父の背中が大きく見えた
 その背中は大きくて、たくましくて あたたかい
 おんぶしてもらった 親父の背中が好きだった
 僕も親父のような背中になりたいと憧れた

大きくなって 親父と背丈が変わらなくなった
 だけど親父のような背中になれない
 だって 家族のすべてを
 支えてくれているから

親父が背負いきれなくなったから
 今度は僕がすべてを背負うよ
 それが今まで背負ってきてくれた
 親父への
 恩返しだから

【出典】兵庫県加西市第13回「愛の詩」入賞作品
 「親父の背中」横山綾亮さん

最後だとわかっていたら

ノーマ コーネット マレック・作

佐川 睦・訳

あなたが眠りにつくのを見るのが
最後だとわかっていたら
わたしは もっとちゃんとカバーをかけて
神様にその魂を守ってくださるように祈っただろう

あなたがドアを出て行くのを見るのが
最後だとわかっていたら
わたしは あなたを抱きしめて キスをして
そしてまたもう一度呼び寄せて 抱きしめただろう

あなたが喜びに満ちた声をあげるのを聞くのが
最後だとわかっていたら
わたしは その一部始終をビデオにとって
毎日繰り返し見たらう

あなたは言わなくても 分かってくれていたかもしれないけれど
最後だとわかっていたら
一言だけでもいい・・・「あなたを愛してる」と
わたしは 伝えただろう

たしかにいつも明日はやってくる
でももしそれがわたしの勘違いで
今日で全てが終わるのだとしたら、
わたしは 今日
どんなにあなたを愛しているか 伝えたい

そして私達は 忘れないようにしたい
若い人にも 年寄った人にも 明日は誰にも
約束されていないのだということ

愛する人を抱きしめるのは
今日が最後になるかもしれないことを
明日が来るのを待っているなら
今日でもいいはず

もし明日がこないとしたら
あなたは今日を後悔するだろうから
微笑みや 抱擁や キスをするための
ほんのちょっとの時間を どうして惜しんだのか

忙しさを理由に
その人の最後の願いとなってしまったことを
どうしてしてあげられなかったのかと

だから 今日 あなたの大切な人たちを
しっかりと抱きしめよう
そして その人を愛していること
いつでも いつまでも大切な存在だということをそっと伝えよう

「ごめんね」や「許してね」や「ありがとう」や「気にしないで」を伝える時を持とう
そうすれば もし明日が来ないとしても
あなたは今日を後悔しないだろうから

高校生が考えた「こうすればいけない親になれる」

- 1 子どものいうことを何でもきく、欲しいものをすぐ買い与える。
- 2 何をしても叱らない。
- 3 子どもの話を聞かない、子どもの気持ちをわかろうとしない。
- 4 まったくほめない。
- 5 子どもとふれあう時間を設けない。
- 6 何をしても無視する。
- 7 子どもをおこってばかり。
- 8 すぐに暴力をふるう。虐待。
- 9 親の考えを無理やり押しつける。
- 10 兄弟や友だちと常に比べる。
- 11 子どもが嫌がっているのに、子どもの前でたばこを吸う。
- 12 学校に協力的でない、給食費をわざと払わない。
- 13 子どもに酒を飲ませる。
- 14 無免許でバイクに乗せる。
- 15 ご飯をつくらない、子どもと一緒にご飯を食べない。
- 16 学校へ行かせない。
- 17 まったくしつけない。
- 18 必要以上に干渉する。
- 19 学校にクレームをつける、我が子に不利なことに対してはすぐに怒り、抗議する。
- 20 子どもを捨てる。
- 21 金遣いがあらい。
- 22 夫婦の仲が悪い、子どもの前でケンカばかりしている。
- 23 隣近所に迷惑をかけている。
- 24 社会のきまりを守らない。
- 25 他人の悪口ばかりを言う。

※ 平成20年度、栃木県立A高等学校2年生の家庭科の授業で実施した、親学習プログラム活用促進事業のワーク回答より抜粋して作成。